

Fiorano®

Fiorano SOA プラットフォームの起動方法 (サーバーの起動と停止、Studio の起動 および ESB サーバーへのログイン)

対象バージョン : 2007 SP7 および 9.0.0

はじめに

この文書は、Fiorano SOA プラットフォームを評価目的でご試用になるユーザーの方々に、その起動方法およびシャットダウンの方法について説明するものです。また、Fiorano Studio の起動方法および ESB サーバーへのログイン方法についても説明しています。

このガイドブックの他に、以下のガイドブックも用意されています。併せてご参照ください。

- Fiorano SOA プラットフォームのダウンロード (製品インストーラと評価用ライセンスの取得方法)
- Fiorano SOA プラットフォームのインストール
- Fiorano SOA プラットフォームのアーキテクチャ概要
- Fiorano オーケストレータによるビジネス プロセス構築の概要

目次

1 Fiorano SOA 2007 サーバーの起動	3
2. Fiorano Studio の起動と停止	4
2.1 Fiorano Studio の起動	4
2.2 ESB サーバーへのログイン	6
2.3 Fiorano Studio の停止	10
3 サーバーのシャットダウン	11
3.1 Fiorano Studio によってシャットダウンする方法	11
3.2 スクリプト ファイルによるシャットダウン	12

1 Fiorano SOA プラットフォーム サーバーの起動

Fiorano SOA プラットフォームでは、次の 2 つのサーバーを起動する必要があります。

- ESB サーバー
- ESB ピア サーバー

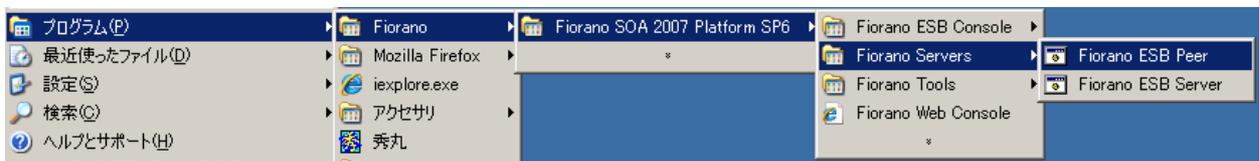
[注意]

WebGateway サーバーは、Web サービスを呼び出す場合やワークリスト マネージャを使用する場合に使用するサーバーです。バージョン 2007 SP4 から、従来の Tomcat から Jetty に変更し、ピア サーバー内に組み込んでいます。したがって、ピア サーバーの起動によって WebGateway サーバーも連動して起動されます。旧バージョンのようにユーザーが明示的に起動操作を行う必要はなくなりました。

ESB サーバーおよび ピア サーバーの起動は、Windows のスタート サーバーから起動する方法と、スクリプト ファイルによって起動する方法の 2 種類があります。

1. Windows スタート メニューからの起動

次のキャプチャ画面は、ESB ピア サーバーを起動するメニュー選択です。ESB サーバーの起動も同様に行います。



2. スクリプト ファイルによる起動

次に示すスクリプト ファイルによって、ESB ピア サーバーおよび ESB サーバーを起動できます。

起動スクリプトの場所

```
¥Program Files¥Fiorano¥FioranoSOA9.0¥esb¥server¥bin¥server.bat
```

Unix / Linux 版では、スクリプト ファイル名が、`server.sh` となります。パスは、Windows 版と同じです。

スクリプト ファイルの実行

コマンド ラインで次のようにパラメータを指定し、実行します。

ESB ピア サーバー

```
server.bat -mode fps
```

ESB サーバー

```
server.bat -mode fes
```

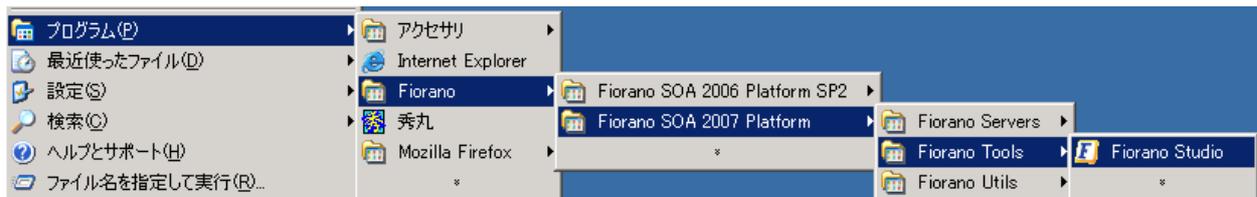
2. Fiorano Studio の起動と停止

2.1 Fiorano Studio の起動

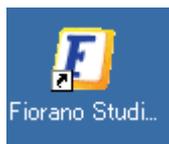
Fiorano Studio は、次のいずれかの方法によって起動できます。

1. Windows の [スタート] メニューから起動

[スタート] -> [プログラム] -> [Fiorano] -> [Fiorano SOA 9.0.0] -> [Fiorano Tools] -> [Fiorano Studio]



2. デスクトップ上のアイコン (ショートカット) から起動



3. %Program Files%\Fiorano\FioranoSOA9.0.0\Studio\bin\Studio.exe を実行

Fiorano Studio の起動が開始されると次の画面が表示されます。起動の完了まで、しばらく (数十秒) かかります。



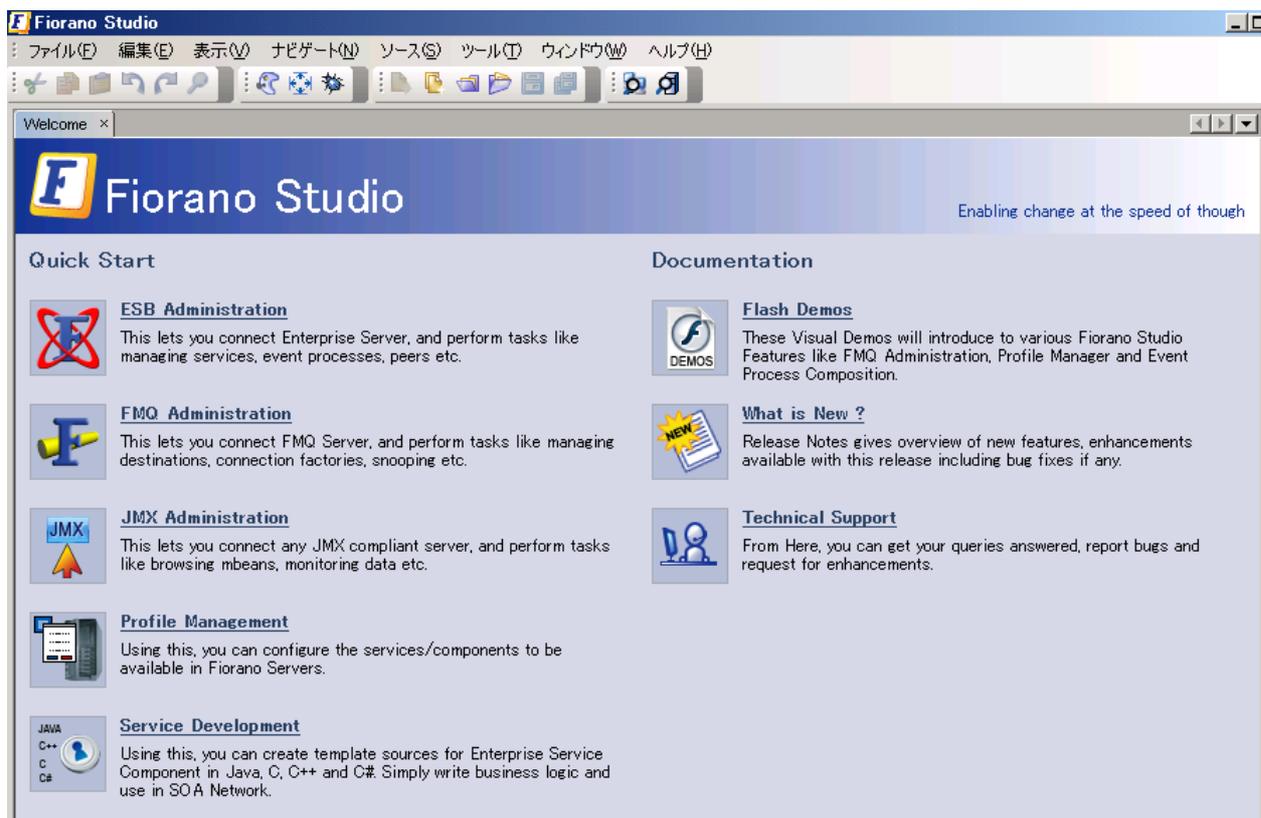
Fiorano Studio は、前回の終了時に使用していたツールおよび開いていたウィンドウを記憶しており、起動時には前回使用していたウィンドウを表示します。このため、起動ごとに表示されるウィンドウが異なることに注意してください。

Welcome ページ

Fiorano Studio は、コンポーネント フローの構築以外にも、様々な管理ツールを提供しています。これらのツールについては、Welcome ページに一覧されており、ここから実行することができます。

Welcome ページを表示させるには、メニューバーにある **【ヘルプ】** のプルダウン メニューから **【Welcome Page】** を選択してください。

Welcome ページを閉じるには、ページの左上 (Studio のメニューバーの下) にあるタブ **【Welcome】** の **x** (閉じる) ボタンをクリックしてください。

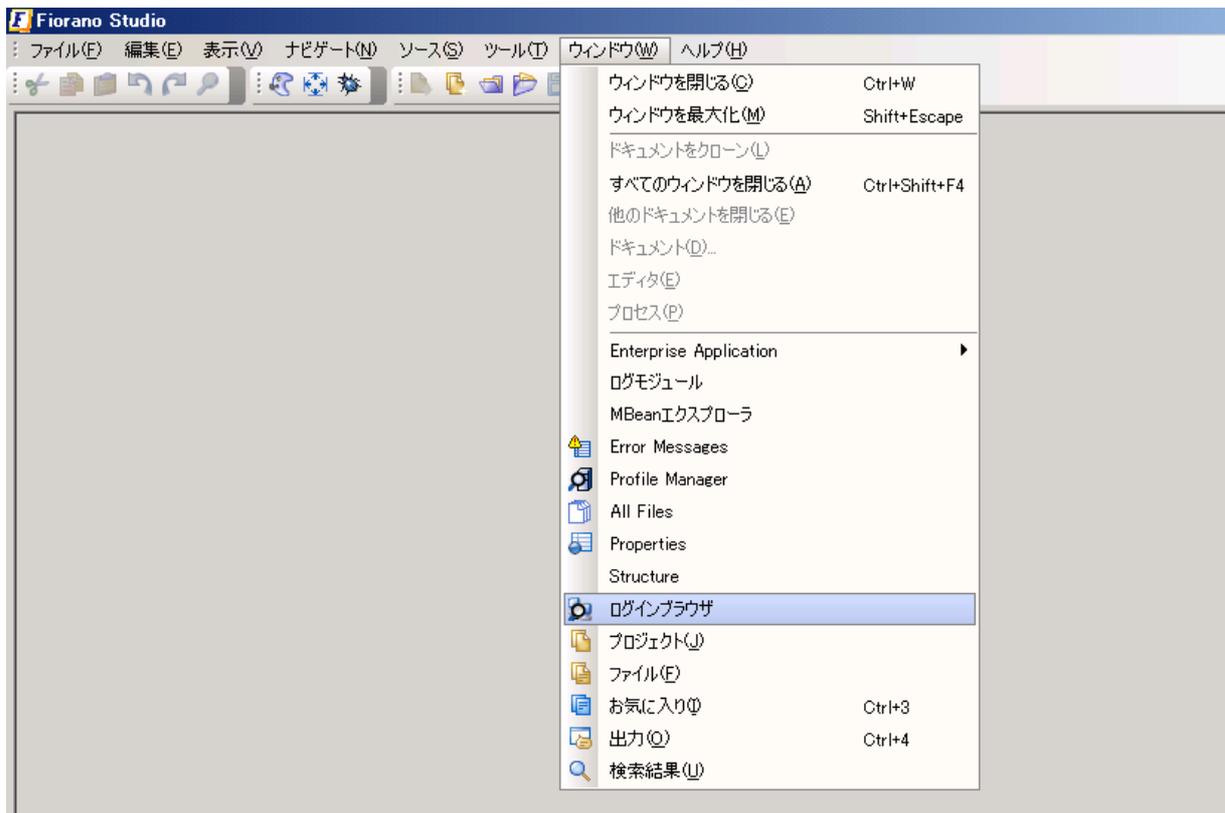


2.2 ESB サーバーへのログイン

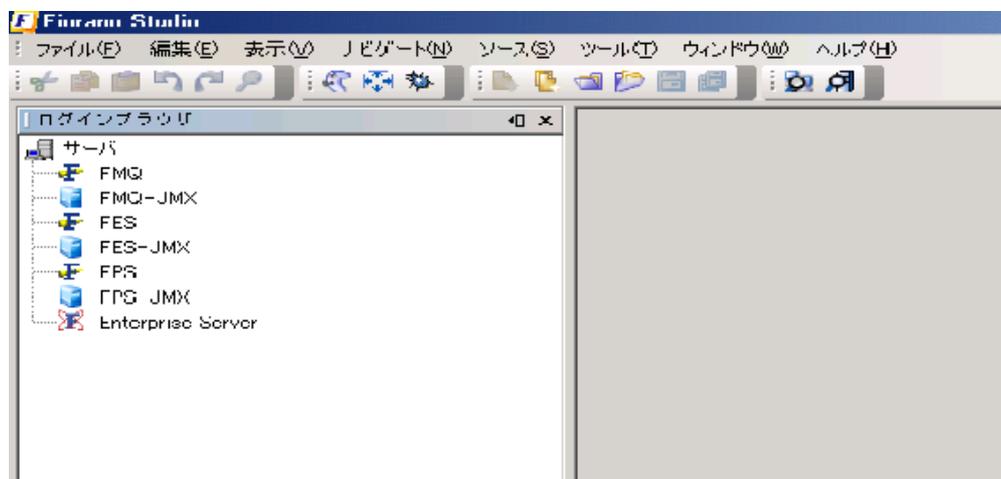
コンポーネント フローを構築、実行するためには、ESB サーバーにログインする必要があります。

1. [ログイン] ブラウザの表示

ログインは、[ログインブラウザ] で行います。メニュー バーの [ウィンドウ] メニューから [ログインブラウザ] を選択してください。



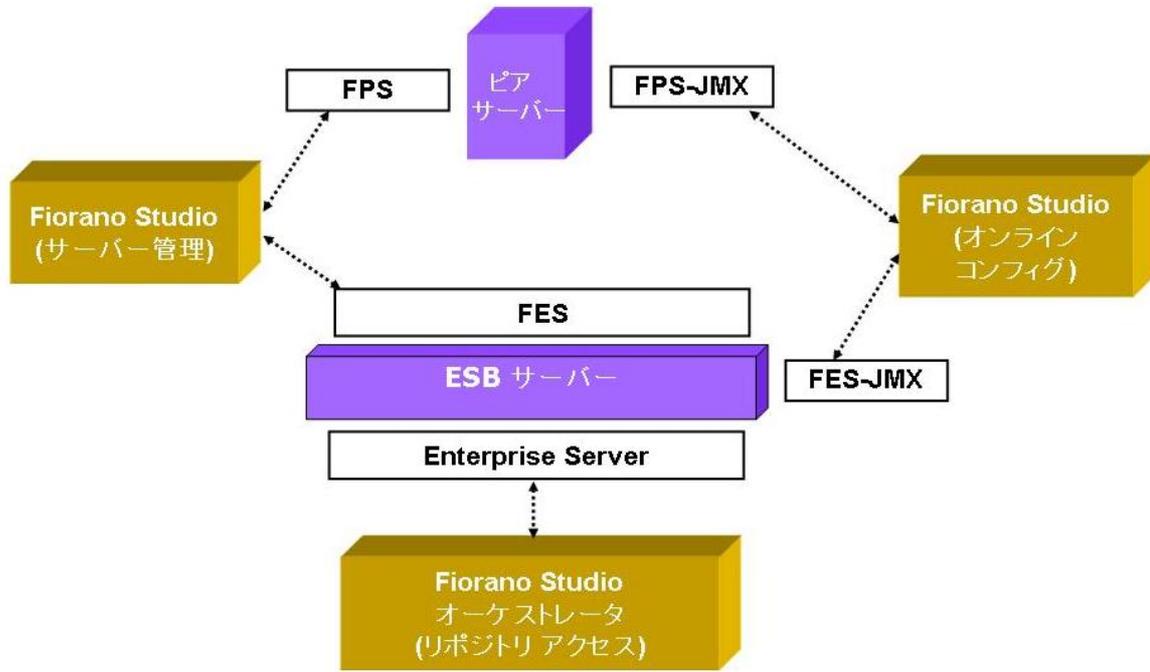
次の画面のように、[ログインブラウザ] が表示されます。



2. サーバー ログインの種類

ログインブラウザには、FMQ、FES、FES-JMX、FPS、FPS-JMX、Enterprise Server などが表示されます。これは、管理目的によって異なるインターフェースを設けているためです。この関係を下の図に示します。

なお、FMQ は FioranoMQ のサーバー (JMS サーバー) を示す名前です。FioranoMQ をインストールしていない場合でも、デフォルトで表示するようになっています。

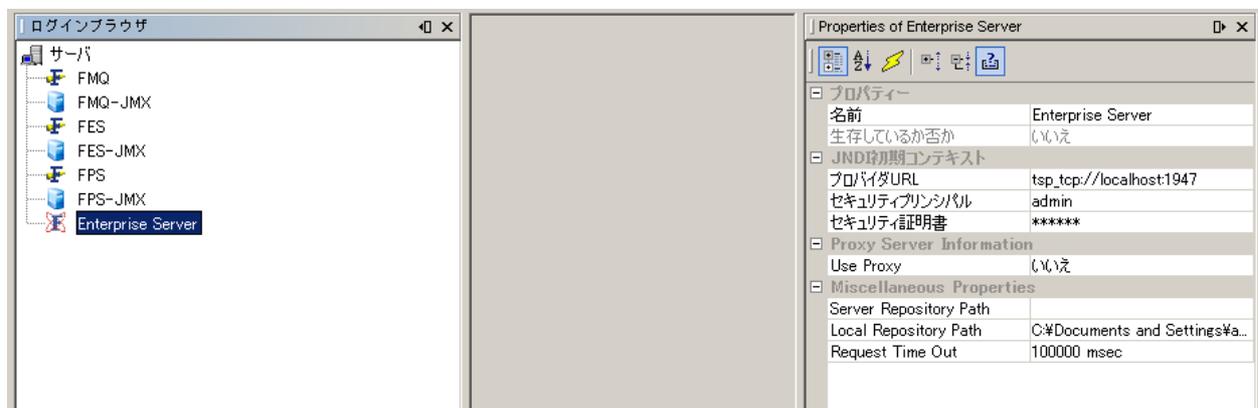


オーケストレーション機能を使用するためには、Enterprise Server にログインして ESB サーバーのリポジトリにアクセスします。

3. サーバーのプロパティ表示とログイン ID

ログインブラウザを表示させると、同時にプロパティ ウィンドウが右側に表示されます。プロパティ ウィンドウは、メニューバーの [ウィンドウ] メニューから [Properties] を選択することで表示させることもできます。

ログインブラウザ上でサーバー名を指定 (マウスの左クリック) すると、プロパティ ウィンドウに指定したサーバーのプロパティが表示されます。



サーバーへのログイン ID とパスワードは、プロパティ ウィンドウで指定します。デフォルトで ユーザー “admin” とその初

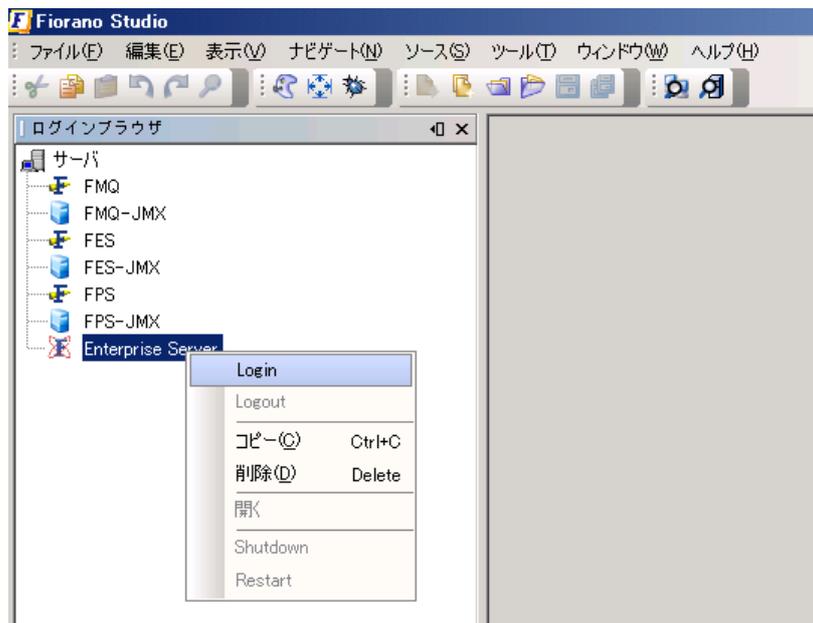
期パスワードが設定されています。

セキュリティ面から、admin ユーザーの初期パスワードを速やかに変更することをお勧めします。変更方法については、ガイドブック『 [ユーザーと権限の管理](#) 』を参照してください。

プロパティ ウィンドウではその他のプロパティ値 (例えば、サーバー名や URL など) を変更することができますが、Fiorano SOA プラットフォームのアーキテクチャについて理解している必要があります。

4. Enterprise Server (ESB サーバー) へのログイン

最下段にある [Enterprise Server] を右クリックし、[Login] を選択します。



[注意]

この評価用ガイドブックでは、同一のマシンにすべてのサーバーとツール類をインストールすることを前提としています。したがって、ESB サーバーと Fiorano Studio は、同一のマシン上で実行させることになります。実環境では Fiorano Studio を、ESB サーバーが稼動しているマシンではなくシステム管理者やコンポーネント フローの開発エンジニアのマシンで実行することが多いと思います。このような場合でも、他のマシン上の ESB サーバーにログインすることができます。

5. リポジトリ

ログインが完了すると、次の図のように ESB サーバーのリポジトリにアクセスできるようになります。

2.3 Fiorano Studio の停止

Fiorano Studio を停止するには、[ファイル] メニューから [終了] を選択してください。



Studio ウィンドウの閉じるボタンをクリックしても終了することができます。



コンポーネント フローの変更を保存していない場合には、保存するか否かを確認するダイアログ ボックスが表示されます。変更が保存されていないコンポーネント フローの一覧が表示されます。個々のコンポーネント フローを選択して 1 つずつ [保存] ボタンで保存する方法と、[すべてを保存] ボタンで一括して保存する方法が採れます。

すべての変更を保存しない場合には、[すべて破棄] ボタンをクリックします。

詳細については、ガイドブック『オーケストレーション概要(基礎編)』を参照してください。



3 サーバーのシャットダウン

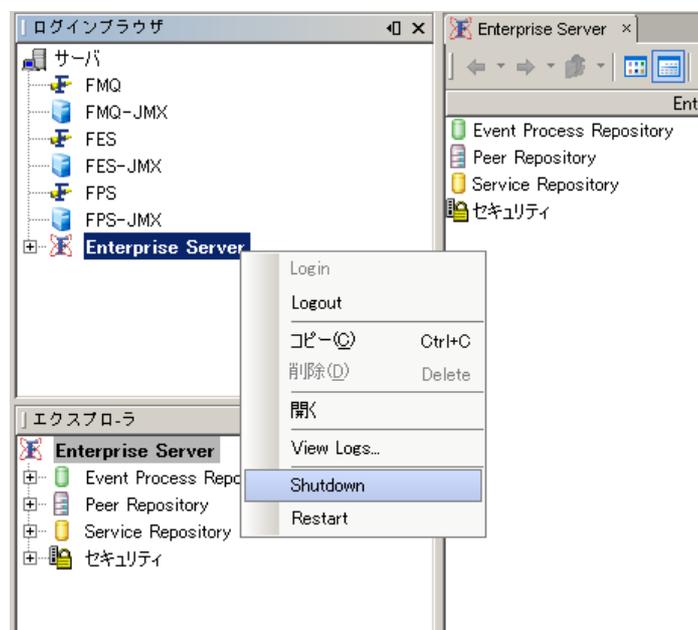
ESB ピア サーバーおよび ESB サーバーのシャットダウンは、以下の 2 つの方法によって行えます。

3.1 Fiorano Studio によってシャットダウンする方法

(1) ESB サーバーのシャットダウン

Studio によって ESB サーバーをシャットダウンするには、ESB サーバーにログインする必要があります (「[2.2 ESB サーバーへのログイン](#)」を参照)。

ログインしている状態で [ログインブラウザ] ウィンドウの [Enterprise Server] を右クリックします。プルダウンメニューから [Shutdown] を選択します。

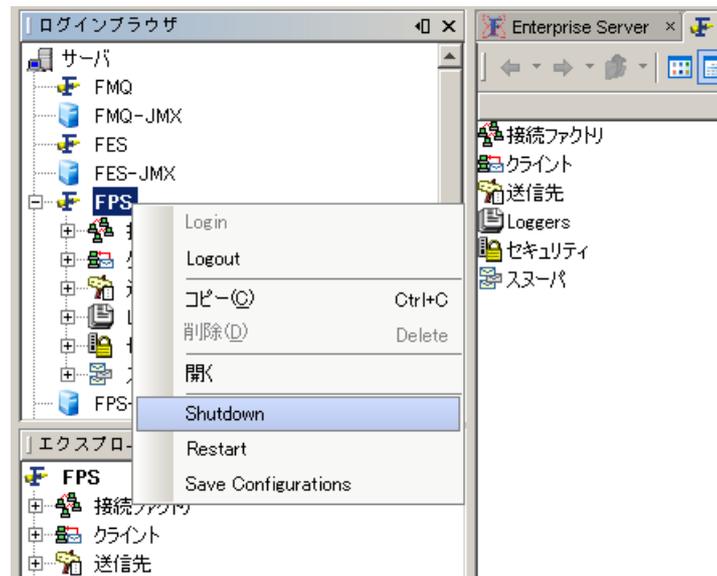


(2) ESB ピア サーバーのシャットダウン

ESB ピア サーバーを Studio からシャットダウンするには、ESB サーバーと同様に、ピア サーバーにログインする必要があります。ピア サーバーへのログインは、[ログインブラウザ] ウィンドウにおいて、[FPS] を右クリックし、メニューから [Login] を選択します。



ESB ピア サーバーをシャットダウンするには、ログイン ウィンドウの [FPS] を右クリックし、メニューから [Shutdown] を選択します。



3.2 スクリプト ファイルによるシャットダウン

次に示すスクリプト ファイルによって、ESB ピア サーバーおよび ESB サーバーをシャットダウンできます。

起動スクリプトの場所

```
¥Program Files¥Fiorano¥FioranoSOA9.0.0¥esb¥server¥bin¥shutdown-server.bat
```

Unix / Linux 版では、スクリプト ファイル名が、`shutdown-server.sh` となります。パスは、Windows 版と同じです。

スクリプト ファイルの実行

コマンド ラインで次のようにパラメータを指定し、実行します。

ESB ピア サーバー

```
shutdown-server.bat -mode fps
```

ESB サーバー

```
shutdown-server.bat -mode fes
```